

映画「認知症と向き合う」東映配給

監修・出演 杉山孝博 監督 保母新之助 脚本 松島恵利子
DVD 上映時間 30分 企画・制作 東映映画(株)教育映像部

この映画は、認知症によく見られる症状、家族の混乱、認知症の人の思いと家族の気持ちの変化、症状の理解、介護者の交流の大切さなど、認知症をめぐる様々な問題を、誰にでもわかりやすく理解できるように制作された、感動的なドラマです。

認知症を知るための入門編であるとともに、介護・看護専門職であっても認知症の世界を深く理解するのに大変役立ちます。

上映時間が30分間とコンパクトにまとめられていて、DVDの再生機(パソコンでも可)とプロジェクターさえあれば、場所を選ばずに観ることができます。

家族の会のつどい、認知症サポーター研修、地域や企業・団体の勉強会、福祉施設などの職員研修、介護・看護の授業教材、民生委員などの研修会などいろいろな機会に活用して下さい。映画を見た後、参加者が体験や感想を出し合って、認知症をさらに深く理解する機会を作るのもよいでしょう。

公開用DVDであるため、1枚66,000円(税別)と高価ですから、次のような機関・団体などに働きかけて購入してもらい、それを借り出して、上映すると宜しいと思います。

- * 図書館 * 社会福祉協議会 * 福祉センター * 福祉施設・企業
- * 自治体(とくに、認知症サポーター研修担当部署) * 地域包括支援センター
- * 認知症の人と家族の会 * 製薬会社 *

また、購入してもらったら、関心を持っている家族会・グループ・町内会などに、どこから貸し出しを受けられるかを伝えましょう。

2016年9月に発売されました。

関心のある方は、東映映画(株)教育映像部のホームページをご覧ください。

映画「認知症と向き合う」東映配給

監修・出演 杉山孝博 監督 保母新之助 脚本 松島恵利子
DVD 上映時間 30分 企画・制作 東映映画(株)教育映像部

あらすじ

夫と死別した文乃(75歳)は、娘夫婦(春樹、翔子)や孫娘(樹理)と同居することになった。

しかし、毎日カレーライスを作って家族を辟易させる、娘と孫の区別がつかない、財布が見つからないと娘を泥棒扱いする、亡くなった夫を迎えに行こうとする、家族が行動を抑えたり子供扱いしたりすると暴言・暴行を繰り返すなど、文乃の言動に家族は振り回され、ばらばらになってしま

う。

そんなとき、春樹は、取引先の社長に連れていかれた喫茶店で、格別においしいコーヒーを飲み感動する。しかも、マスター(茂)の妻(節子)から、夫は3年前から認知症ですと言われてびっくりする。

節子は、春樹に次のような話をする。

「認知症って、確かに色々な事を忘れちゃうし、大変な事もいっぱいある。でも、その人であることに何も変わりがないのよ。大切な事はちゃんとして(胸)で覚えてる。悲しかったり嬉しかったり、他の人とおんなじように一生懸命生きてるの」

春樹が感動を胸にして家に帰ると、翔子と樹理が打ち沈んだ表情をしていた。樹理から、表紙に「備忘録」と書かれた文乃のノートを渡された。

ノートには、「カレー、だれも食べてくれない」、「かぞくにメイワクかけてる。ごめんなさい」、「教師の私がバカになるなんて。娘にしかられる。情けない」、「私のせいで、かぞくがバラバラ。シニタイ」——こんな言葉がちりばめられて書かれていた。

樹里「私、お婆ちゃんは何にも分からないと思って、酷い事ばっか言ってた。お婆ちゃんを一杯傷つけちゃった」。ペそをかく樹里。

翔子「私も、お母さんを追いつめていたのね。自分は一生懸命やってるつもりだったけど、お母さんがこんなに悩んで苦しんでたなんて」。深いため息でうつむく翔子。

春樹「俺だって同じだよ…、ううん、俺が一番分かってなかったかもしれない」

後日、節子から「認知症カフェ・ひろば」を紹介されて、春樹と翔子は参加する。その日は、認知症の専門の杉山孝博医師の講演が予定されている。

参加者は会話を楽しんでいる。その時、茂が入れたコーヒーの香りが漂ってくる。わっと人が集まる。「これが楽しみで来ちゃうのよ」などの声が上がリ、茂が嬉しそうな表情をする。

節子「夫には人を笑顔にする、こんなにすごい力が残っているのよね」

杉山医師が、「知は力なり！よく知ろう」と書いた紙を示しながら、認知症の特徴を分かりやすく話し始めると、参加者は納得した表情で聞き入る。

杉山医師の講演の内容は次のとおり。

「まず正しい知識を持つことです。認知症の人の気持ちや状態を理解すれば、介護者の苦労は減り、患者さんの症状も改善され、ひいては、互いに良い関係を築ける様になります」

「認知症が始まると記憶障害という、ひどい物忘れが起きます。例えばご飯を食べたのを忘れる、物をしまった場所を忘れる、前の日に作った料理のことを忘れるなど、自分のした事をすっかり忘れてしまいます。記憶になれば本人にとって事実ではないと覚えて下さい」

「過去の世界に逆戻りして、これまでの記憶を失ってしまうこともあります。たとえば、働き盛りの自分に戻ったつもりで会社に行こうとしたり、旧姓で呼ぶと返事をする場合は、結婚前の自分に逆戻りしていると考えます。本人が思ったことは本人にとって絶対的な事実です。否定せず相手に合わせる対応が大切です」

「忘れてはいけないのが、認知症の人は感受性がとても強いことです。自分が邪魔者にされている、馬鹿にされている、悪く言われているといった事を敏感に感じとります。認知症が進行しても、プライドを持ち続けますので、子ども扱いされれば傷つきますし、暴言や暴力といった問題行動につながることもあります」

「介護は合わせ鏡だと言います。介護する側がイライラすれば患者さんもイライラしますし、穏やかな気持ちで接すれば患者さんも笑顔になります。大変な事も多いですが一人で抱え込まず、周りの手を大いに借りてください。介護者が穏やかな気持ちでいられることが、最善の介護につながるのですから」

講演を聞きながら、春樹と翔子の頭の中には、文乃の以前の言動がフラッシュバックして、思わず納得する。

ある日の夕食。献立はやはり、カレー。

樹里「…やっぱ、カレーだね」

春樹「うん、まあいいんじゃないか。定番料理だし」

樹里「私、唐揚げトッピングしよ」

春樹「俺は、豪華にカツカレーだ」

今度はうまく受け入れるようになった。そして、昔、文乃がつくった卵焼きの話題になり、

樹里「私、卵焼きが超食べたくなってきた。ねえ明日の朝ごはん、卵焼き作って。いいでしょ、おばあちゃん」

文乃「うん、いいよ」

翌朝、自分が作った卵焼きをみんながおいしそうに食べているのを見て、文乃に笑顔が戻ってきた。

文乃の部屋。文机の上にノート。

そこには、「ありがとう」の文字が見える。

END

映画を見たあと、次のようなことを考えてみませんか？

1. 家族をはじめ周囲の人が、認知症の人の言動に振り回され、混乱するのはなぜでしょうか？
2. 認知症の人はどのような症状を出しますか？皆さんに経験はありますか？
3. 認知症になると、何もわからなくなり、何もできなくなるのでしょうか？
4. 「認知症になっても心は生きている」と思えますか？それは、どのような場合ですか？
5. 認知症についての理解を深めるためにはどのようにしたらよいのですか？
6. 認知症の人の示す言動にはどのような特徴がありますか？
7. 認知症の人を支える地域の輪をつくるにはどのようにしたらよいのでしょうか？
8. 認知症の人と家族を支えるためには、どのようなサービスが必要でしょうか？
9. あなたの介護体験を聞かせてください。
10. この映画をみた感想を聞かせてください。

(2016年9月)